

## 高校教育における「学び」の転換

「教える」ことから「学ぶ」ことへ――

佐藤 秀之

はじめに

今高校教育は大きく変わろうとしています。高校入試における総合選抜制度の廃止、総合学科や自由選択制高校の設置等、広島県においても中央教育審議会答申をうけた文部省の方針にそって、高校教育改編は急ピッチで進められています。確かに現在の高校教育が、中教審のいうように「画一化」「硬直化」してきている一面はあります。偏差値重視の受験競争という渦の中に、生徒も教師も親も巻き込まれていかざるを得なかった戦後日本社会の実態があるからです。しかしそのことがすぐ「一人ひとりの能力・適性に応じた教育を重視」するための、「入試制度の改善」や「中高一貫教育」「大学入学年齢の特例」等、制度の「改革」で解決するとは到底考えられません。むしろますます能力主義が徹底されていくのではないかと思うのです。「答申」ではまた、「生きる力」をはぐくむ」ということが重視されています。その真意は別として、私自身教育の原点はこの「生きる力」をつけさせることにあると思っ

ています。ところが近年私は、生徒たちが授業を含めて学校生活の中で、この「生きる力」を身につけるための「学び」を習得しているのだろうかという疑問を感じ続けていました。そんな中で最近試みたいいくつかのささやかな実践を報告してもう一度自らを振り返ってみたいと思います。

### 一 「学校に行くのが楽しい！」

生徒が高校生活の中で、「学ぶ」意義を感じるその第一歩は、「学校に行くのが楽しい」というところから始まるのだと思います。そして学校生活の中で、生徒の拠り所は、まずクラス・学級です。

私がかねがね学級づくりを課題として、担任を続けてきています。今春三年生を送り出して、すぐ新一年生の担任を希望しました。今一年四組の担任で、五年連続して担任ということになりました。

今年もわくわくしながら初日を迎えました。新入生にとって高校生活第一日目はとても大切な日だからです。前日、

教室の整備を一人で行いました。いくつかの中学校から集まってくる（四組は一八の中学校から四一名集まっている）新入生はどうしても最初硬い雰囲気教室に入ってきます。まず自分の席に座りますが、今年は男女が机をくつつけて並ぶよう設定してみました。できるだけ早く男女が仲良くなることをねらったのです。普通は男女別の六列ですが、これだと一学期の終わりごろになっても、男女が一つになつた、まとまつたクラスというところまで行かないのが現実です。効果はすぐ現れました。一週間もすると同じ班の男女が自然な形で話しているのがあちこちで見られるようになります。男女が仲のよいクラスは、行事はもちろん授業にも良い結果を生みます。

さて、初日には私の学級への思いをできるだけ優しく、そして熱っぽく語ります。どんなクラスにしたいか、学級通信第一号を使いながら表明していきます。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」とこの優しさと情熱の私の名（？）演技に、生徒たちはすぐにだまされてしまうのです。

こうして四月五月と経過するうちに、徐々にクラスの個性が作られていきます。そして次は、親との関係を重視した取り組みを行います。学級通信は、家庭と担任・学校をつなぐ手段でもあります。記事には親の声も載せます。五月の下旬ごろ通信を通じて、親に手紙を書いてくれるよう呼びかけました。親からわが子へといったような気持ちで

何か書いてくださいとお願いし、その用紙を生徒に持たせて帰させます。出てきたものは順次通信に掲載します。親の声はいずれもわが子への思いや願いが書かれています。中には励ましの言葉や、逆に不満な思いなど書かれる親もいます。しかし、いずれも親ならではの愛情が伝わってきます。生徒たちは自分の親の文章が通信に載ると、少し照れながらもなんとなくうれいようです。いやがる生徒も佐藤先生ならこんなこともするだろうと、掲載やむなしとあきらめているようです。（資料一）

六月の文化祭は、最初のクラス全員がとりかかる学校行事です。取り組みの中で私の役割は、生徒一人一人に自分の役割を自覚させるという一点に絞っています。今年は焼きそばとポップコーンを作って売る食品バザーでした。期間中にはいろいろとおもしろいエピソードがあります。すぐ通信に書きます。当日は保護者の方もたくさん来られ、高校で生き生きしている生徒達を見て喜んで帰られました。七月は林間学校がありました。キャンプファイヤーのスタンプはクラスごとが出し物を演じます。四組は「ある日の学校生活」という題で、先生方のものまね授業などまじえ、大喝采でした。

「学校満足度調査」という世界のいくつかの国で実施されている調査があることを知り、さっそく六月にクラスで実施して見ました。私のクラス経営の検証にもなると思っただからです。結果をご覧ください。（資料二）

学校生活に「満足・やや満足」の六二、五％は、日本ではかなり高いポイントのようですが、西欧諸国等の外国と比較するとそれほどでもないということです。(参考 アメリカ八九、フランス七七、六 韓国六三、五 中国四〇、九)「不満」の中身に着目することが、次へのステップとなりました。また、クラブ活動は学校生活に潤いを与えるものと確信しています。私の経験上言えることは、クラブ結果率の高いクラスは、クラスのみとまりという点でも学業の点でもよい結果を生んでいると思います。クラスの間関係が横糸だとすれば、クラブのそれは縦糸のような働きをし、この二つの糸がバランス良く交差したとき高校生は一段成長するのだと思っています。

○「楽しい」の中身を次のようにまとめてみました。

○自分の声のみならず、みんなの心に響きわたる。意見が自然体で出せる。

○なかまを一個の人格として認めることができる。

○なかまの声に素直に耳が傾けられる。

○授業がわかる。

これからも指針としたいと思います。

## 二 「高校生にできること、しなければならぬこと！」

私は、この十四年間社会問題研究部(社問研)のクラブ顧問をしています。生徒達の活動は、平和問題を活動内容

の柱として、人権や学校生活のなかのいろいろな問題について学習し、それを校内だけでなく、県高校生集会や全国高校生集会などで発表しています。舟入高校の前身は、広島市立高等学校通称「市女」と呼ばれていました。一九四五(昭和二〇)年八月六日、原爆によって市女生徒六六六名、教師十名がなくなりました。これは市内の学校で最大の犠牲者数です。

社問研が、市女同窓生や犠牲となった当時の生徒・教師の関係者からの被爆聞き取り活動を初めて十四年になります。生徒たちは毎年聞き取りの後、一冊の聞き取り冊子にまとめ、今夏第十四集ができあがりました。

部員たちは、明るく生き生きと活動しています。市女の戦争・被爆体験を手がかりとしながら、そこから人権・平和の諸問題、そして自分たち自身の問題へと学習を深めてゆく活動を続けてきました。真剣に学習活動に取り組み、自分のことばでまとめることで学習を確かなものにする努力をし、さらに成果を県集会や全国集会で発表・交流することで自信を持ち、次第にたくましく成長してきています。少ない部員たち(一年生五名、二年生二名、三年生三名)は、互いに励まし、支え合いながら活動を続けています。そして、社問研活動に賛同して、文化祭や高校生集会の前などに、協力してくれる、生徒たちの存在も社問研部員を力づけてくれています。これからも人権や平和の問題に真剣に取り組みながら、こうした関係をより広げ、深めてゆ

くことが大切であると思っています。

今年の八月二日〜六日の五日間、しんぶん赤旗全国版にその活動の様子が連載され(資料三)、全国から多くの励ましが寄せられました。

### 三 「こんな授業があつたらいいな！」

今までの教育を、「わかる」「できる」を軸とした「ひたすらめざす教育」・「偏差値重視の教育」とするなら、これからの教育は、「自ら学ぶ」を軸とした「あじわいながらめざす教育」・「意欲と関心重視の教育」へと変革する必要があると説く学者がいます。共感するものがあります。そのためには現在の自分の国語教育指導方法や内容を検証する必要があります。テーマ単元の設定や研究単元の絞り込み、スマートな指導案から決別して葛藤する授業へ、生徒の声から練り上げる発問を、等課題は多くあります。当然評価の仕方も変えなくてはいいけません。

ある大学で大学生を対象として、小学校・中学校・高校時代の授業を思い返しなが、「こんな授業があつたらいいな」という項目でアンケートした結果が新聞に載っていました。

・先生の体験談で盛り上がる授業  
・先生の生い立ち、人生の失敗をひたすら語って  
・間違えても、はずかしいと思わなくていい授業  
・みんながお日様の下で、芝生に寝ころんで、自分の一番大切なものを披露して  
・授業の内

容によつて授業を受ける場所を変え、ドキドキしながら、みんなが地域を散策する授業  
・いろいろな遺跡をめぐり、その土地の文化に触れながら、船で世界一周  
・遠足みたいな授業。気がむいたらスケッチしたり詩を書いたり  
・教科書に書いてあることを教えるのではなく、考えさせられる授業  
・クラスのみんなと体で感じ、わかちあえるようなもの  
・興味もてる導入  
・上手な人にはより高度なもの、下手な人にはその人ができそうなものを  
・先生が一方的に教えるだけでなく、キャッチボールがいたるところでおこなわれるような授業  
・五〇分間、授業を黙々と続けるのではなく、余談やおもしろい話が十分ぐらいあつたほうが、絶対心に残りやすい  
いくつかやってみようかなというものがありました。

### 四 「学ぶ喜びを！」

生徒が学習に喜びを感じるときはどんなときでしょうか。その第一は、生徒が「わかった」と自覚したときでしょう。たえず生徒の目線に添って、指導案を練り授業を展開する努力が要求されます。生徒が自分で考えそして理解するような展開を、ついつい忘れてしまう平素の展開に自戒するばかりです。

二番目は、生徒が自分で「表現できた」ときではないかと思っています。生徒自身が学習に対して能動的に取り組むために、「表現する」ことを意識しています。

短歌の学習の後生徒に短歌を創作させて、一冊の「歌集」を作つてやります。慣れない高校生が、まさに苦吟して三十一文字をひねり出す時、時にすばらしい感性が発揮されます。何気なく過ごしている生活の中に、自分を見つめるきっかけともなるという派生効果も生じます。毎回、歌集には「若葉」と題をつけています。昨年十月、三年生の詩の学習の後「詩集 幼年時代」を発行しました。どの詩にも純真でかわいかったあのころの少年少女が登場し、苦しい受験生活の日々に一服の清涼剤を与えたようです。俳句の後は「句集」、評論の後は「小論文集」とやつていく中で、生徒の「書く」意欲と「喜び」が芽生えてくるような気がします。

高校生には、みんなの前でかしまつて「話す」機会がなかなかありません。日ごろの訓練がないから話させるには一工夫がいります。国語の授業で機会をとらえなければと思うのですが、準備の大変さや人間関係ができていない一種の遠慮のようなものに負けて、つい自分から逃げているのが現実です。そのぶん毎日接するホームルームクラスではそれが可能です。年間予定のないロングホームルームの時間に、スピーチを取り入れていきます。クラスの中には話の上手な生徒や、人を笑わせるのが趣味のようなひょうきんな生徒が必ず一人や二人います。意識的に、話せる生徒を前半にもつていきますと、あとはスムーズに流れ、楽しい時間となります。話し終わると拍手が自然と出、話し

手は、緊張感がとれるとともに安堵感が「喜び」に変わつていく様子が伺えます。三年生には二学期の後半に二、三時間かけてスピーチをさせます。三年間を振り返るとともに、将来の夢が話され、聞いていて本当に一人一人がいとおしくなります。

小説教材「檸檬」で、内容分析から観賞まですべて自分でやらせる展開を試みました。平素ただ板書を写すだけの生徒も、自分で「ノート化」(資料四)することによって工夫をこらし、必死で作業していました。中に明らかに「読み取る喜び」を味わっていると思われる生徒がいたことを報告しておきます。

### おわりに

今年私は教師生活三十年目を迎えました。過ぎてしまえばあつと言う間の30年間でした。そして、この度こうして自分の教育実践を振り返る機会が与えられた時、ほとんど自分のものが確立されていないことに気づきます。それでも私は、子供たちと一緒に遊びたい、学び合いたいという気持ちで教師になつて以来、あくまでも生徒を中心にした教育実践をと、いつも自分に問い聞かせながらやってきたつもりです。「教える」から「学ぶ」への転換は、古くて新しい課題です。私に残された時間はもう多くはありませんが、これを機会に、また気持ちを新たにがんばろうという気になつている今日このごろなのです。



⑨ あなたは学校生活に満足ですか、不満ですか。

(1) 満足

男子 3人 女子 7人 計10人(25%)

(その理由)

☆楽しいから ☆自分の理想に近いから ☆友達にもめづまれているし、  
 悩みとか聞いてくれる先生も友達もいるし、他のクラスにも友達を広く  
 知っているし、勉強教えてくれる人もいるし、本当にめづまれたと思う。  
 ☆授業以外楽しい。 ☆クラスも楽しくて、友達もいっぱいできたから。  
 ☆よくわからないけど。 ☆クラスがとっても楽しいです。いい友人がた  
 くさんできたし。 ☆クラスが楽しい。 ☆楽しいから。

(2) やや満足

男子 7人 女子 8人 計15人(37.5%)

(その理由)

☆人づきあい。 ☆クラスになじんだから。 ☆土曜日が4時間 休日も  
 クラスもあり。 ☆クラスが楽しいので、土曜日が4時間。 ☆友人がそ  
 れほど多くない。英語がわからん。 ☆あまり話す人がいないから。 ☆  
 設備がいいし、友達もばちばちできているから。 ☆水泳があるから1水  
 泳やめてくれ。 ☆仲のよくなった友達とクラスが別行してしまったから。  
 ☆楽しいから。勉強がちょっとわからんから。満足じゃない。  
 学校で楽しいのは休憩時間、放課後、お昼です。 ☆思ったより大抵で、  
 理想とかけ離れているから。 ☆楽しいこともあるけど、なんかムカッ  
 こととかもあるから。大人と子供の価値観がちがって、納得できない原因  
 あるから。 ☆クラスが楽しいから。 ☆楽しくなったが、勉強、友達の  
 原因で、☆自分でやりたいことを見つけてないから、☆勉強以外はすこ  
 く楽しい。

(3) やや不満

男子 7人 女子 5人 計12人(30%)

(その理由)

☆疑問にうるさい。 ☆なんとなく。 ☆席がほしい、先生がおもしろ  
 くない。 ☆面白い。 ☆英語の先生の授業がつまらん。 ☆おもしろい。 ☆  
 なんとなく。 ☆勉強が大変だから。 ☆環境が違いうざてみんなとおわ  
 ない。 ☆たのしくない。 ☆だるい。

(4) 不満

男子 3人 女子 0人 計3人(7.5%)

(その理由)

☆友達関係、部活のことなど。 ☆クラスのシステム。 ☆面白い。  
 ☆あなたの悩みや心配事にはどのようなものがありますか。次の項目から選んでくだ  
 さい。

- ・勉強、成績のこと
- ・こづかいが少くない
- ・自分の音楽(顔やスタイル)が気に入らない
- ・遊ぶ時間が少ない
- ・自分が自分を理解してくれない
- ・友達が少ない、友達とうまくいかない
- ・家庭内にあらまじいことがある
- ・その他

好きな事なし  
 部活のこと  
 将来

⑩ 平日の家庭学習時間

時間	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4
男子	7	4	7					2	
女子	6	5	5	1	1	1			1

⑪ クラス加入数 24人(58.5%)

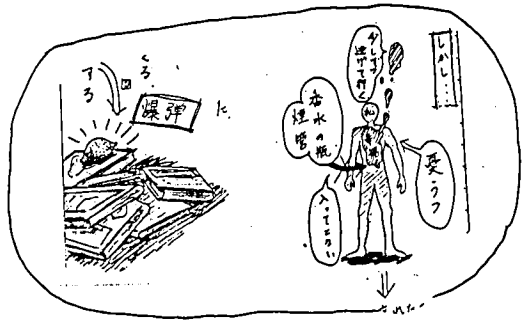
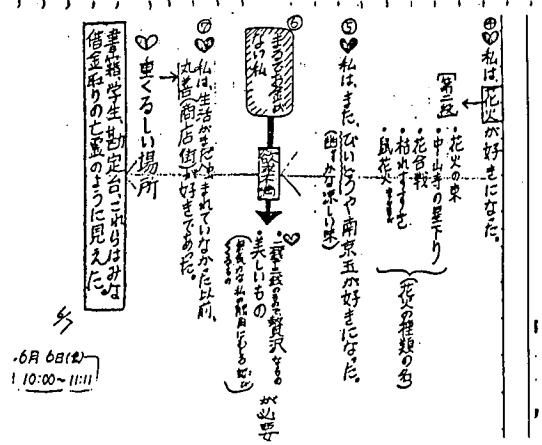
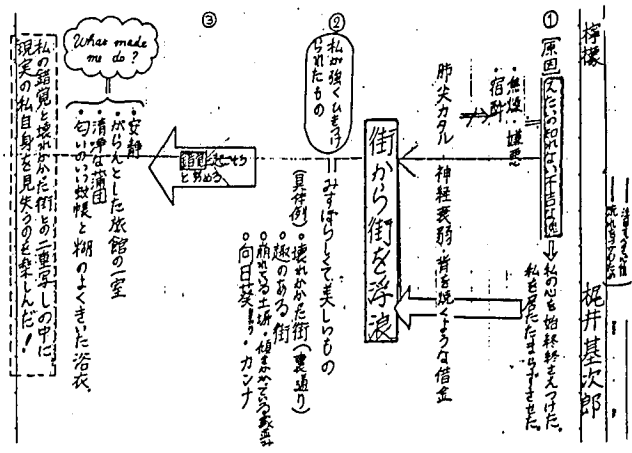
男子 17人(85%)

- 形式テニス2 軟式テニス 社会問題研究部 陸上3
- サッカー4 卓球 野球2 パドミントン 軽音楽 パスケット
- 女子 7人(33.3%)
- 囲碁 バレー 陸上2 軽音楽 放送 パスケット









(広島市立舟入高等学校)